

TENT FOR HATCH BACK DOOR

Publication number: JP2248585

Publication date: 1990-10-04

Inventor: FURUKAWA AKIRA; HASEGAWA TOMIHEI

Applicant: SUZUKI MOTOR CO

Classification:

- international: **E04H15/06; B60P3/345; E04H15/00; B60P3/32; (IPC1-7): B60P3/345; E04H15/06**

- European:

Application number: JP19890069530 19890322

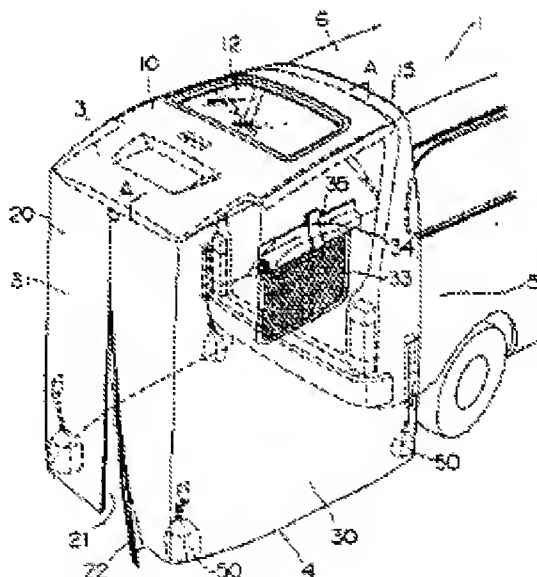
Priority number(s): JP19890069530 19890322

[Report a data error here](#)

Abstract of **JP2248585**

PURPOSE:To permit a tent to be set without forming aperture on the upper part by a simple constitution in which a tent consisting of a ceiling part to cover almost the whole face of a hatchback door opened and a rear side drooped from the periphery of the ceiling part and both sides are provided.

CONSTITUTION:A tent 4 consisting of a ceiling part 10 to cover almost the whole face of a hatchback door 3 opened of an auto car with the door 3 and a rear side part 20 and both side parts 30 which droop around from the ceiling part 10 are provided. A window 12 is provided on the corresponding position of the window of the door 3 for the ceiling part 10, and an entrance 21 and a window 33 are also provided for the rear side part 20 and the side part 30. Adequate weights 50 may be also provided to the lower part of the sides 30 as needed to prevent the rocking of the tent 4.



.....
Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

⑫ 公開特許公報(A)

平2-248585

⑥Int. Cl.⁵E 04 H 15/06
B 60 P 3/345

識別記号

庁内整理番号

8913-2E
7816-3D

⑬公開 平成2年(1990)10月4日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑭発明の名称 ハッチバックドア用テント

⑰特 願 平1-69530

⑱出 願 平1(1989)3月22日

⑲発 明 者 古 川 昭 静岡県浜松市小池町92

⑳発 明 者 長 谷 川 富 平 静岡県浜松市植松町1466-3

㉑出 願 人 鈴木自動車工業株式会 静岡県浜名郡可美村高塚300番地
社

㉒代 理 人 弁理士 奥山 尚男 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

ハッチバックドア用テント

2. 特許請求の範囲

ハッチバックドアを備えた自動車において、はね上げたハッチバックドアのほぼ全面を覆う天井部と、該天井部の周囲に垂下される後側部と、両側部とからなり、前記天井部にはハッチバックドアのウインドに対応する位置に窓を、車体寄りの端縁に車体側との係止部を設け、前記後側部と側部には出入口と、窓とを適宜配設したことを特徴とするハッチバックドア用テント。

3. 発明の詳細な説明

a. 産業上の利用分野

本発明は後部にハッチバックドアを有する自動車において、はね上がったハッチバックドアを利用して装着するハッチバックドア用テントに関する。

b. 従来の技術

ハッチバックドアの内側周縁に幕体取付け機構

を設けた公知例として、実開昭61-9321号、“自動車のバックドア”がある。

これは第6図に示すようにはね上がったハッチバックドアの内側周縁にカーテンレールを周設し、フックによって吊下げたカーテンを開閉可能に構成したものである。

c. 発明が解決しようとする課題

従来、自動車のハッチバックドアは、ハッチバックドアを開いて雨を避けながら荷の積みおろし作業をおこなうのみで、前記従来例のようにキャンピングカーとしてハッチバックドアを利用した例は他にない。

また、前記従来例においても、ハッチバックドアの内側周縁にカーテンレールを特別に周設せねばならず、また、これに係合せしめるコロ、フック、吊環などの多くの部材を要し、構造が複雑で高価になるという欠点がある。

また、カーテン上部とレールとの間には構造上から隙間があり、このような隙間のない本格的なテントを装着した構造のものは未開発である。

本発明は前記事情に鑑みてなされたもので、前記問題点を解消してなるハッチバックドア用テントを提供することを目的とする。

d. 課題を解決するための手段

前記目的に添い本発明は、ハッチバックドアを備えた自動車において、はね上げたハッチバックドアのほぼ全面を覆う天井部と、該天井部の周囲に垂下される後側部と、両側部とからなり、前記天井部にはハッチバックドアのウインドに対応する位置に窓を、車体寄りの端縁に車体側との係止部を設け、前記後側部と側部には出入口と、窓とを適宜配設することによって前記課題を解決した。

以下、本発明の実施例について図面を参照しながら詳細に説明する。

第1図～第3図において、1は後部にハッチバックドアを備えたワンボックスタイプの小型自動車の車体、3は開放した状態を示すハッチバックドア、4はこのハッチバックドア3の上よりかぶせたテント、5は車体1のボデーサイド、6は同じくルーフを示す。

図(a)に示すように軸方向(即ち車の左右方向)にスリット16が設けてある。

テント4の後側部20は、地上付近あるいは地上にとどく長さで構成してあり、適当位置、たとえば、ほぼ中間に上下方向にスリットを設けて出入口21を設けてある。この出入口21はファスナー22によって開閉可能に構成してある。また必要に応じて適当位置に窓を設けて、採光、通風の便に供してもよい。

テント4の側部30は、前記後側部20と同じ長さからなり、上部に採光と通風用に窓33を設けてある。34は窓33の上部に設けた垂れ簾で、必要に応じて垂れ下げて窓33を閉じるように構成してある。不必要時に図示のように巻き上げて係止具35で止着しておく。なお窓33は透視防止のため網(防虫網など)を張設してある。窓33については透明の合成樹脂シートなどを張設してもよく、其他適当な変形構造を採用することができる。また前記後側部20に設けた出入口21に相当する出入口を適宜設けることもできる。

ハッチバックドア3は公知慣用の構造からなるはね上げ式のもので、上部にウインド8を備えている。

テント4は天井部10と後側部20と両側部30、31とによって箱状に構成され、車体1側と底部は開放されている。

テント4の天井部10は、はね上げられてほぼ水平位置を保つハッチバックドア3の全面を覆うように形成し、ハッチバックドア3のウインド8の位置に対応して、ほぼ同形の窓12と、車体1側寄りの端縁に沿って係合芯13とを設けてある。

前記窓12は、たとえば透明な合成樹脂材(PVCなど)を用い、テント内部の採光を配慮してある。

また前記係合芯13は柔軟な材料、たとえば布や繊維などからなる紐状のもので、変形が容易にできるように構成してあり、第3図(a)に示すように天井部10の端縁から延長した布部に巻かれて止着されている。この係合芯13は、車体1のルーフ6の後端に左右にわたって設けた係合管15に挿入係止するようになっている。この係合管15には第3

他側の側部31についても側部30に準じた構造としてある。

50は側部30の車体1寄りの内側下方に吊下げた重錘であり、第4図において51はゴム紐などからなる弾性索、52は弾性索51をテント4の側部30の内壁に固定する縫付片である。該縫付片52は弾性索51をフリーな状態で案内保持する筒状のガイド部53と弾性索51とともに縫付片52を側部30に縫付固定する固定部54とからなっている。55は弾性索51の先端に固定したフックである。

この重錘50を吊下げてなる構造は、人間のテントへの出入りや、風などによってテント4が動揺するのを防ぐとともに、テント4の側部前縁が常に車体1のボデーサイド5に密着しているようにしたものである。

なお、前記重錘50は予め容易した袋に設営地にある砂礫や、其他適当な重量物を収容したものでよい。

第5図に示すものは重錘を利用した他の取付構造の実施例で、垂れ布56の上端部をテント4の側

部に縫付け、重錘50を紐57で直接吊下げるようにしたものである。この実施例では、前記のように弾性索を必要としない個処、すなわち、テント4の後側部下部などに設けるのに適している。

なお、これら重錘を用いたテントの張設に代って地面に打込んだ杭にテントに固定した紐でしばるようにしてもよい。

さらに、前記弾性索51の先端のフック55を車体1の下部の適当な部材に引掛けて止着するようにしてもよい。

テント4の他側の側部31についても、側部30に準じて同様な重錘を設けるようにしてある。

e. 作用

テントは次の要領で張設する。まず、テント4の天井部10の端部に設けた係合芯13の左端あるいは右端を、第3図(a)(b)に示すように車体1の右あるいは左から、ルーフ6に設けた係合管15に挿入する。この場合係合芯13と天井部10との間にある布部が係合管15のスリット16の間に入るため、係合芯13はそのまま右あるいは左の方向にスライド

して車幅一杯に挿入される。

次にテント4を開き、車体1寄りを開口させたあと、ハッチバックドア3を開くと、天井部10がハッチバックドア3とともに上昇し、その上面を覆う状態となり、テント4の後側部20、両側部30、31をそれぞれ垂れ下げて第1図に示す状態でテント4が張設される。なお、先にハッチバックドア3をはね上げてからテント4の係合芯13に係止するようにしてもよい。

次に設営地から適宜、砂、小石などを袋に収容して重錘を作り、この重錘50を弾性索51に引掛け、あるいは垂れ布56に結縛すればよい。

f. 発明の効果

本発明に係るハッチバックドア用テントによれば、

- ① ハッチバックドアを利用し、人間が立って動き廻られる広さを持ち、かつ上部に隙間のないテントの設定が極めて簡単かつ容易にできる。
- ② ハッチバックドア上部のウインドを利用し

て、上部に採光窓が簡単に設定でき、また側部の窓などによりテント内部の明るさ、通風が確保できる。

- ③ テントは、車体ルーフに特別の固定方法で、係止するので雨が洩らず、かつテントの形状が保持できる。

- ④ 重錘等を利用すればテントが動揺しないように車体に固定できるので、地面の状態に左右されずにテントの張設が簡単にでき、かつ車体との隙間からの風雨の浸入も防止できる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明に係るハッチバックドア用テントの斜視説明図、第2図は第1図のA-A部分断面説明図、第3図(a)は第2図のB部分の拡大斜視説明図、同図(b)はB部分のテントを取り外した場合の斜視説明図、第4図は重錘の取付構造の斜視説明図、第5図は重錘の他の取付構造の斜視説明図、第6図は従来例の斜視説明図である。

3…ハッチバックドア、 4…テント、
10…天井部、 12…テントの窓、

13…係合芯、 15…係合管、
20…後側部、 30, 31…側部、
50…重錘。

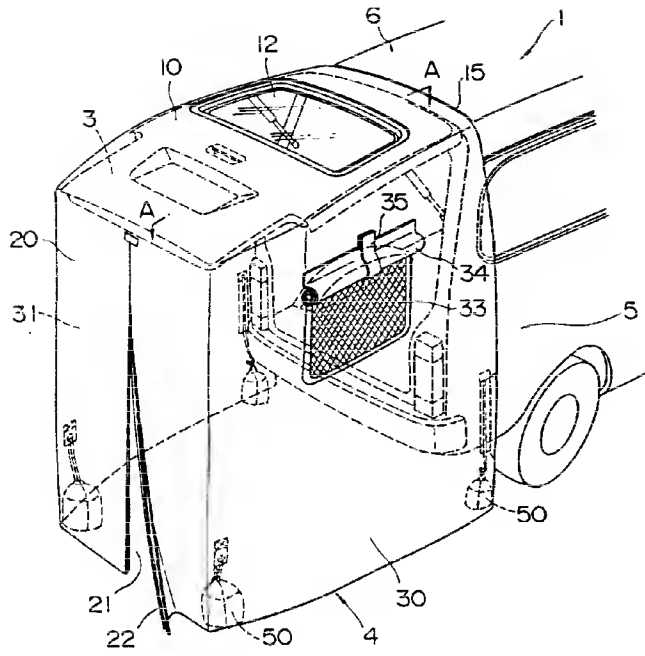
特許出願人 鈴木自動車工業株式会社

代理人 弁理士 奥山 尚 男

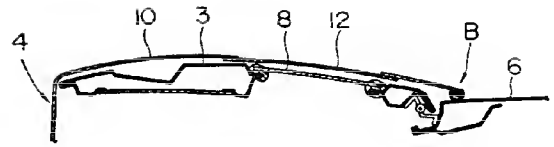


(ほか2名)

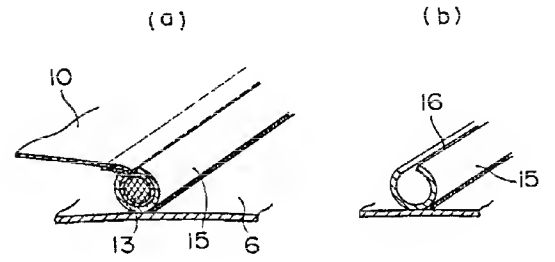
第 1 図



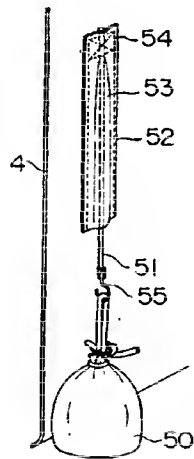
第 2 図



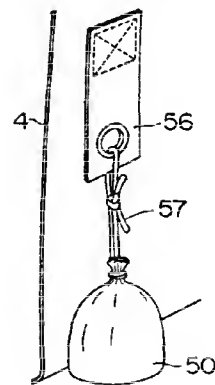
第 3 図



第 4 図



第 5 図



第 6 図

